

### <教育実習の流れ>

教員免許を取得するため、本大学では各学年において、段階的に実習を行う。  
また、それぞれの実習の前後には事前指導及び事後指導といったものがある。

1年次

### 体験実習

小学校及び中学校  
・特別支援学校の  
見学

2年次

### 基礎実習

授業の見学

3年次

### 本実習

附属学校  
特支実習  
特別支援学校

4年次

### 協力校実習

母校等で行う

## めあて 教育実習支援をしよう！

### 聴覚障害学生の不安

- ・ 周囲とのコミュニケーションをどうやってとればいいのか分からない…。
- ・ 授業中、児童・生徒の発言を聞き取ることができかな…。

### 実際の実習支援

- ・ パソコンやノートテイク、手話通訳などが常になり、それぞれ活用したので周囲とのコミュニケーションをスムーズにとれた。
- ・ ロジャー（遠隔補聴システム）を使用した。

### 実習を終えて

- ・ 達成感・充足感を得られた。
- ・ ろう学生にとっても聴児にとっても良い出会い・経験になった。

### ● パソコンテイク

授業時と同様、遠隔でのPCテイクを2～3人の支援学生により行う。移動が多いため、状況に合わせてノートテイクを行う。

### ● 複数人のテイク

協議会や会議など複数人が発言する場合、「発言者A」「発表者B」などに振り分ける。また、内容の把握ができるよう要約してのテイクを行う。

### ● ブギーボードやホワイトボードの活用

児童・生徒の発言や先生とのコミュニケーションをとる手段として用いている。

### ● 子どもたちとの関わり

テイクを用いずに利用学生自身がコミュニケーションをとることで児童・生徒の障害理解につながる。本人の授業のテイクは本人の判断による。